

小・中・高・特 合同

平成 31 年度 (2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

学校保健

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究内容の概要（研究構想図）	2
III	研究の視点	3
IV	研究仮説	3
V	研究方法	3
VI	研究内容	
1	基礎研究	4
2	調査研究	6
3	検証授業	7
	小学校	8
	中学校	10
	高等学校	12
	特別支援学校	14
VII	研究のまとめ	15

## 発達段階に応じた思考力、判断力、表現力等を育む保健教育

### I 研究主題設定の理由

近年、社会環境の変化や情報化社会の進展などにより、様々な情報の入手が容易になるなど、子供たちを取り巻く環境が急激に変化しており、学校においては、健康情報、性や薬物等に関する情報を正しく選択して適切に行動できる力を育むことが喫緊の課題となっている。

子供たちが、このような様々な課題の解決を図るためには、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことを目指した学校における保健教育を推進し、子供たちの健康に関する資質・能力を育成することが重要である。

現在、子供たちは、これまでの保健教育の取組などにより、健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容を身に付けるなど、一定の成果が見られる一方で、自ら健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む資質・能力が十分ではないとの指摘がある。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日）（以下「答申」と表記。）では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」（以下、「三つの資質・能力」）の柱が示され、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことを示している。

こうした中、令和 2 年度から、小学校、中学校、高等学校と、段階的に新しい学習指導要領が全面実施されるため、今後、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえながら、子供たちが生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことが求められている。

これまでの保健の学習は知識を中心とした事項で内容が構成されていたが、今回の学習指導要領改訂において「健康課題を解決する力」を育成するため、思考力、判断力、表現力等の内容が示されたことはとても重要である。世の中が変化し、答えが一つではない課題と向き合う時代に入っていく中で、自他の健康のために粘り強く考え、適切に判断し行動することが求められている。保健教育においては、このような予測しにくい様々な健康課題をよりよく解決していく資質・能力の基礎を身に付けることが重要であると考えた。

保健教育は、小学校から高等学校まで継続的に行われる学習である。小学校体育科保健領域、中学校保健体育科保健分野、高等学校保健体育科科目「保健」の学習は、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目標として、学習内容が体系的に位置付けられている。各校種の発達段階に応じて学習内容の系統性が分かりやすく構成されているのも保健の特徴である。指導に当たっては、それぞれの発達の段階に応じた指導を工夫することが求められる。保健の学習内容に関心をもてるようにするとともに、発達段階に応じて主体的・対話的な学習活動を取り入れることにより、思考力、判断力、表現力等を含む三つの資質・能力をバランスよく育むことができると考えた。このことを踏まえ、本研究では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、研究主題を「発達段階に応じた思考力、判断力、表現力等を育む保健教育」と設定した。

## Ⅱ 研究内容の概要（研究構想図）

平成 31 年度 (2019 年度) 研究員共通テーマ

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

### 【現状と課題】

- ・ 社会環境や生活環境の急激な変化により、児童・生徒の心身の健康状態や健康に関わる行動に大きく影響を与えている。
- ・ 健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等を徹底することが課題である。
- ・ 安全に関する環境が変化していることを踏まえ、児童・生徒が起こり得る危険を理解し、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を育むことが課題である。

### 【育てたい児童・生徒像】

- ・ 日常生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けることができる。
- ・ 健康について自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
- ・ 健康の保持増進を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養うことができる。

#### 小学校

身近な生活において、より実践的に考え、判断し、表現することができる。

#### 中学校

個人生活において、より科学的に考え、判断し、表現することができる。

#### 高等学校

個人及び社会生活において、より総合的に考え、判断し、表現することができる。

#### 特別支援学校

身近な生活において、自己の障害や実態に応じて考え、判断し、表現することができる。

## 研究主題

発達段階に応じた思考力、判断力、表現力等を育む保健教育

### 【研究仮説】

保健教育において発達段階に応じた主体的・対話的な学習活動を取り入れることにより、児童・生徒の思考力、判断力、表現力等が育まれ、健康に関する適切な意思決定や行動選択ができる力を高めることができるだろう。

### 【研究方法】

#### 基礎研究

- ・ 先行研究や文献等から、保健教育の現状や指導方法、児童・生徒の意識を把握する。

#### 調査研究

- ・ 質問紙調査により児童・生徒の保健に関する意識や実態を把握するとともに、授業実施前後の変容について分析する。

#### 検証授業

- ・ 発達段階に応じた思考力、判断力、表現力等の捉えを明確にする。
- ・ 主体的・対話的な学習活動の指導方法について工夫する。
- ・ 所属校の児童・生徒を対象とした保健教育を実施し、研究仮説を検証する。

### 【評価・検証方法】

- ・ 授業実施前後に児童・生徒に質問紙を用いた調査を行い、実態の変容を分析する。

- ・ 授業中の発言やワークシート、児童・生徒の様子から、思考力、判断力、表現力等の高まりを分析・考察する。

### Ⅲ 研究の視点

本研究では、保健教育において、児童・生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を育むための、指導方法の更なる工夫を目指し、以下の視点から研究を進めた。

#### 1 主体的な学びの工夫

明確な学習課題を設定することで、学習の見通しをもちながら、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組み、自らの学習を振り返ることができるようにした。学習内容が、現在及び将来の自分とどのようにつながっているかを意識できるようにし、獲得した知識や技能を活用する課題を設定することで、より意欲的に学習に取り組むことができると考えた。

- (1) 学習意欲を高める導入の工夫
- (2) 学びを実感できる体験的な活動の工夫
- (3) 自分の考えや思いに結び付ける終末の工夫

#### 2 対話的な学びの工夫

発達段階に応じた健康に関する話合いや他者との協働を通して、自らの考えを広げ、多様な解決方法を考えられるようにした。児童・生徒の生活経験や科学的根拠に基づいた事例（データ）を提示するとともに、思考の過程が分かるワークシート等を活用することにより、対話的な学びを通して深い学びにつながると考えた。

- (1) 話合いが活発になるグループ編成の工夫
- (2) 事例（データ）等を用いた活動の工夫
- (3) 思考の過程が分かるワークシートの工夫

### Ⅳ 研究仮説

保健教育において発達段階に応じた主体的・対話的な学習活動を取り入れることにより、児童・生徒の思考力、判断力、表現力等が生まれ、健康に関する適切な意思決定や行動選択ができる力を高めることができるだろう。

### Ⅴ 研究方法

#### 1 基礎研究

文部科学省や保健教育に関する全国調査等の参考資料を基に、保健教育の現状や児童・生徒の実態を把握する。また、思考力、判断力、表現力等を育むための保健教育の指導方法について検討する。

#### 2 調査研究

児童・生徒の保健に関する意識や実態を把握するため、都内公立学校の児童・生徒に質問紙法による調査を行い、集計・分析する。また、思考力、判断力、表現力等を把握するため保健教育におけるワークシートの分析を行う。

#### 3 検証授業

各校種の保健教育における「思考力、判断力、表現力等」を明確にしなが、主体的・対話的な学習活動の指導方法について検討する。また、各校種において授業実践及び効果検証を行いながら、研究内容の充実を図る。

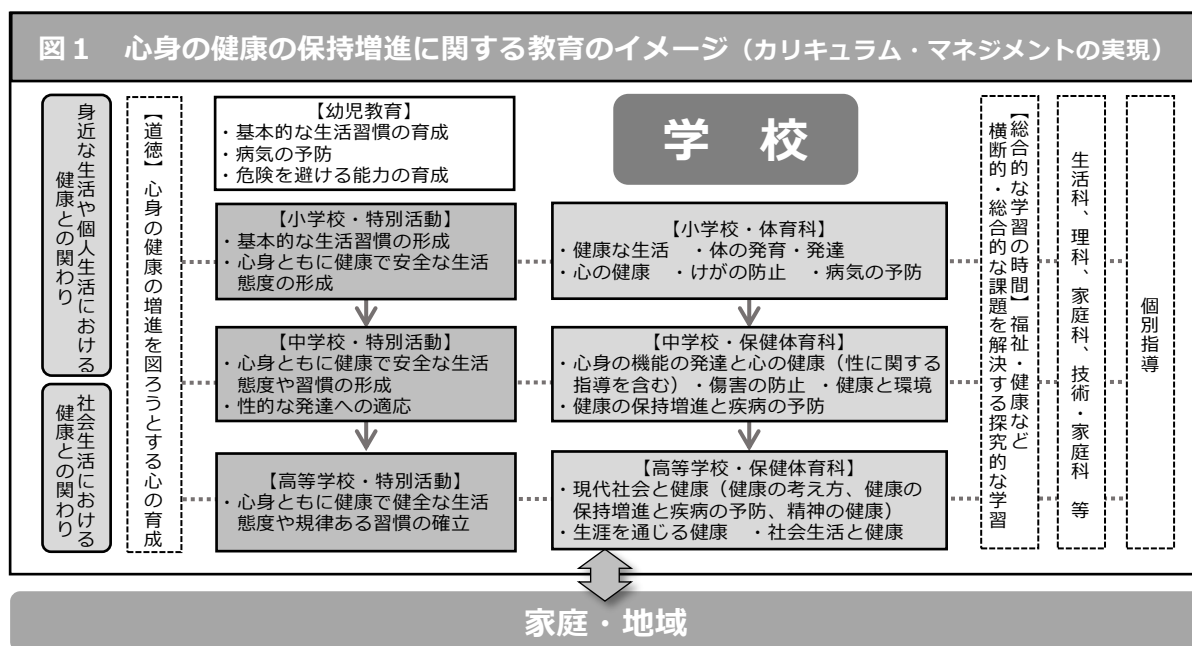
## VI 研究内容

### 1 基礎研究

#### (1) 保健教育の現状

小学校学習指導要領第1章総則第1の2の(3)において、学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めることとされている。特に、健康に関する指導については、児童が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切であることが示されている。これらの指導については、発達段階に応じて、中学校や高等学校学習指導要領総則にも同様に示されている。

学校教育においては、児童・生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図ることなどを通して、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと、いわゆる、カリキュラム・マネジメント（図1）の実現が求められている。これらを踏まえて、保健教育においても、小学校体育科保健領域、中学校体育科保健分野、高等学校体育科科目「保健」を中心に、特別活動、総合的な学習の時間など関連する教科等がそれぞれの特質に応じて行われた上で、相互に関連させて指導していく必要がある。その際、児童・生徒の実態や教育活動の現状を踏まえて、個々の児童・生徒が抱える課題を受け止めながら、その解決に向けて、主に個別の会話・面談や言葉掛けを通して指導や援助を行う個別指導に関連させて、児童・生徒を支援していくことも重要である。



中央教育審議会総則・評価特別部会資料より作成

(2) 保健の学習に関する児童・生徒及び教師の現状

「保健学習推進委員会報告書 - 第3回全国調査の結果 - (公益財団法人日本学校保健会平成29年2月)」(以下「全国調査」と表記。)から、保健の学習に関する児童・生徒及び教師の現状を以下のとおり把握した。

ア 児童・生徒調査から

「保健の学習は大切だ」「保健の学習は、健康な生活を送るために重要だ」の「価値」について、肯定的回答をした児童・生徒の割合は90%前後であった。また、「保健の学習が好きだ」「保健の学習は楽しい」「保健の学習は健康な生活を送るために重要だ」「自分の生活に生かしているか」については、小学校段階と比較して、中学校、高等学校では肯定的回答の割合が低くなる傾向であった(表1)。

このことから、児童・生徒は保健の学習について、健康な生活を送るために大切だと分かっているにもかかわらず、実際の学習意欲や日常生活での実践には十分につながっていないため、保健の学習についての意欲を高める工夫が必要であると考える。

経験した保健学習の状況では、「学習した内容は理解できたか」の肯定的回答の割合は60%~70%前後であった。一方、「考えたり工夫したりできたか」の肯定的回答の割合は40%~50%前後であった。このことから、学習内容について一定の理解はしているものの、思考力、判断力、表現力等を育むためには、児童・生徒が自ら考えたり工夫したりする活動を充実していく必要があると考える(表2)。

イ 教師調査から

保健の学習の指導方法の工夫については、「学習カード(ワークシート)や学習資料などを工夫した」の肯定的回答の割合が、他の指導方法と比較して高かった。また、「課題解決的な学習」を取り入れている割合は全ての校種において約4割であった。「学習グループを編成した」「TTや少人数指導を実施した」と回答した割合は他の質問と比較すると低い結果であった(表3)。

これらの結果から、本研究では、学習形態の工夫やチーム・ティーチングなどの指導方法の工夫を効果的に取り入れ、健康に関する思考力、判断力、表現力等を育てていく必要があると考える。

表1 保健の学習意欲と日常生活における実践状況

	小5	中1	高1	高3
保健の学習は <b>大切だ</b>	94.0%	87.9%	92.5%	93.6%
保健の学習は健康な生活を送るために <b>重要だ</b>	92.9%	86.7%	89.5%	88.4%
保健の学習が <b>好きだ</b>	<b>65.9%</b>	<b>50.9%</b>	<b>51.3%</b>	<b>47.9%</b>
保健の学習は <b>楽しい</b>	<b>60.6%</b>	<b>51.0%</b>	<b>49.3%</b>	<b>45.1%</b>
自分の生活に生かしているか	<b>74.4%</b>	<b>57.2%</b>	<b>55.8%</b>	<b>58.2%</b>

「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答した割合(%)

表2 経験した保健学習の状況

	小5	中1	高1	高3
学習した内容は理解できたか	72.4%	62.4%	61.3%	72.6%
考えたり工夫したりできたか	<b>52.7%</b>	<b>47.4%</b>	<b>40.2%</b>	<b>43.4%</b>

小5は小3・4年 中1は小5・6年 高1は中学校  
高3は高1・2年の保健学習について回答(平均)

「そう・どちらかといえばそう」と回答した割合(%)

表3 保健学習の指導方法の工夫

	小学校	中学校	高等学校
<b>学習カードや学習資料</b> を工夫した	85.7%	76.3%	59.7%
<b>課題解決的な学習</b> を取り入れた	42.0%	41.9%	41.0%
<b>学習グループ</b> を編成した	<b>28.0%</b>	<b>31.9%</b>	<b>36.3%</b>
<b>TTや少人数指導</b> を実施した	<b>21.1%</b>	<b>15.3%</b>	<b>9.3%</b>

## 2 調査研究

### (1) 目的

児童・生徒の保健に関する実態を把握し、授業実施前後の変容について分析する。

### (2) 対象

事前調査においては、研究員所属校(特別支援学校を除く。)における児童・生徒を対象とした。事後調査では、調査期間中に授業を実施した学校の児童・生徒を対象とした。事前事後の

表4 調査対象数

	保健教育				総数
	体育科・保健体育科			特別活動 中学校	
	小学校	中学校	高等学校		
事前調査	173人 (3校)	181人 (1校)	82人 (1校)	118人 (2校)	554人 (7校)
事後調査	89人 (2校)	181人 (1校)	82人 (1校)	26人 (1校)	375人 (5校)
有効回答	80人 (89.9%)	158人 (87.2%)	62人 (75.6%)	26人 (100%)	326人 (86.9%)

調査結果の比較については、両方のデータがある児童・生徒のみ対象とした(表4)。

### (3) 方法

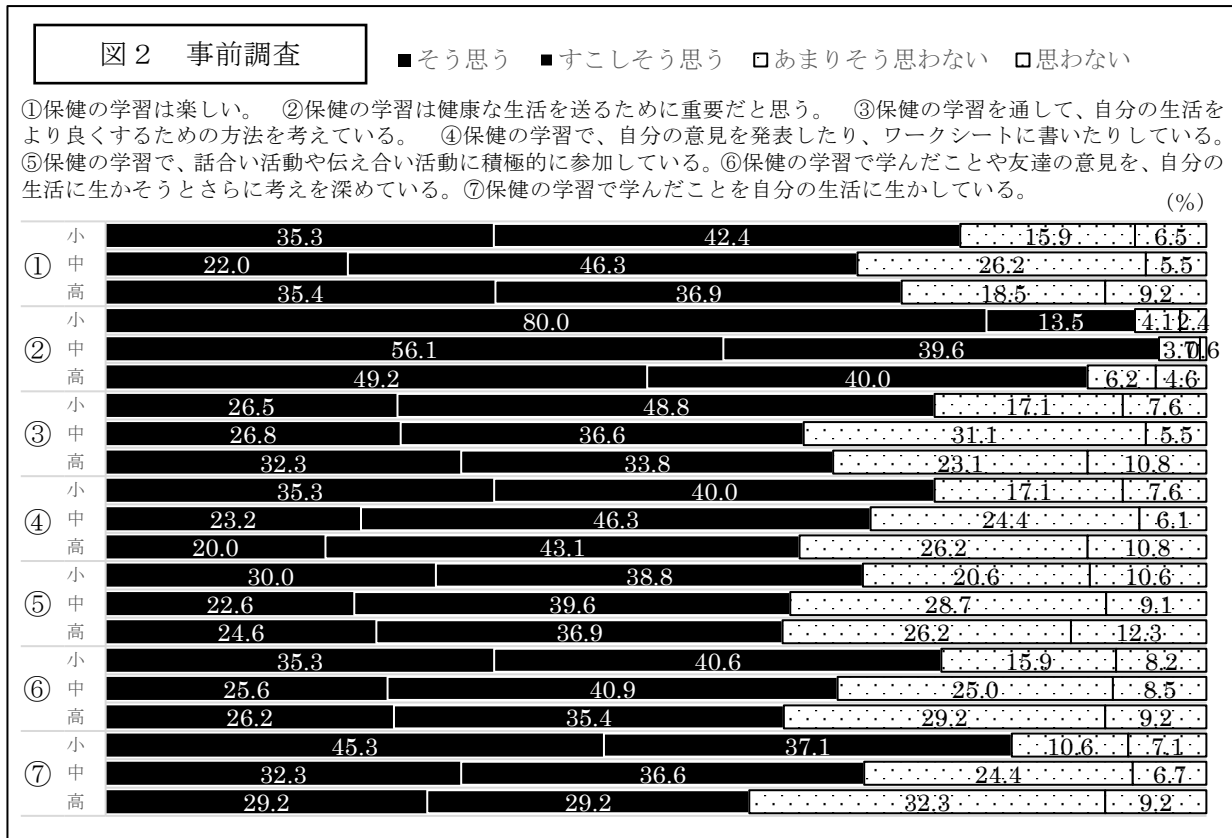
授業前と授業後の2回、質問紙(選択式)による調査を実施した。集計する際、無回答の場合は無効回答とし、有効回答のみで分析を実施した。

### (4) 内容

保健教育に関する学習意欲、価値、日常生活における実践状況等

### (5) 事前調査結果から

質問に対して、全体として肯定的な回答をした児童・生徒が多かった(図2)。しかし、校種が上がるにつれ肯定的な回答の割合は低くなった。⑤「保健の学習で、話し合い活動や伝え合い活動に積極的に参加している。」では、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校約70%、中学校・高等学校は約60%だった。





### 3 検証授業

#### (1) 検証授業を行うに当たって

##### ア 保健教育における思考力、判断力、表現力等の捉え

児童・生徒の発達段階に応じて、校種ごとに思考力、判断力、表現力等について明確にした（表5）。

表5 発達段階に応じた思考力、判断力、表現力等の捉え

小学校	身近な生活における健康・安全に関する内容について、自分の生活に結び付けながら思考・判断するとともに、それらを理由を添えて他者に伝える。
中学校	抽象的な思考も可能になる発達段階を踏まえて、個人生活における健康・安全に関する内容について、科学的根拠に基づいて思考・判断し、それらを筋道を立てて他者に表現する。
高等学校	自我の確立に加えて社会的な事象に対する興味・関心が広がり、自ら考え判断する能力が身に付きつつある発達段階を考慮し、個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について、科学的根拠に基づいて思考・判断し、社会とのつながりを踏まえて総合的に課題解決を図るとともに、それらを筋道を立てて他者に表現する。
特別支援学校	自分の生活における健康・安全に関する内容について、自己の障害や実態に応じて思考・判断し、生活に生かす。

#### イ 主体的な学びの工夫

##### (ア) 学習意欲を高める導入の工夫

授業の導入で、健康課題への気付きや発見ができる発問や事例等を活用し、本時の課題に見通しをもたせ、学習意欲を高めるようにする。

##### (イ) 学びを実感できる体験的な活動の工夫

身近な生活における事例や写真を基に考えたり、体験的な活動をしたりすることを通して、児童・生徒が学びを実感し、より自分のこととして捉えられるようにする。

##### (ウ) 自分の考えや思いに結び付ける終末の工夫

授業の終末段階において、習得した知識及び技能を確認し、自己の変容に気付く振り返りを通して、理解の定着を図り、充実感や達成感を味わうことができるようにする。

#### ウ 対話的な学びの工夫

##### (ア) 話し合いが活発になるグループ編成の工夫

多様なグループ活動を取り入れ、児童・生徒が自分の考えを互いに伝え合い、協働的に課題解決を図る対話的な学習活動を設定する。

##### (イ) 事例等を用いた活動の工夫

校内や日常生活で起こりやすい場面を設定した事例やデータを示すことで、児童・生徒の身近な課題として捉えさせ、課題解決について話し合う活動を活発にする。

##### (ウ) 思考の過程が分かるワークシートの工夫

課題解決を図るために、自分の考えやグループの意見をワークシートに記入するとともに、対話的な学びを通して自分の考えがどのように変容したのか分かるようにする。

(2) 検証授業①【小学校】

ア 単元名 けがの防止 第5学年

イ 単元の目標

知識及び技能	交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止について理解することができるようにするとともに、けがの簡単な手当などの技能を身に付けることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	けがの防止について、課題を見付け、その解決に向けて考え、それらを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

ウ 単元計画

	ねらい	主な学習活動
第1時	事故やけがは人の行動と周りの環境が原因で起こること、人の行動は、心の状態や体の調子と関係していることを理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や地域ではどのような事故やけがが起こっているのか知る。</li> <li>事故やけがが起こる原因について考える。</li> <li>事故やけがの起こり方についてまとめる。</li> </ul>
第2時	交通事故や犯罪被害を防ぐために、話し合ったり発表したりすることを通して、危険の予測や回避の方法を考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通場面や校内に隠れている危険を予測する。</li> <li>学校生活における事故やけが、交通事故を防ぐための工夫や危険回避について考える。</li> <li>事例から、犯罪被害を防止する方法について考える。</li> </ul>
第3時	学校生活のけがを防ぐために、話し合ったり発表したりすることを通して、危険の予測や回避の方法を考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活でけがが起こりやすい場面を振り返る。</li> <li>校内で起きる危険な場面の写真をもとに、事故やけがを防ぐには、校内でどんな対策をしたらよいかグループで考える。</li> <li>校内のけがを減らすために、どんな対策が効果的か考える。</li> </ul>
第4時	けがの状況を速やかに把握し処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解するとともに、簡単なけがの手当をすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な手当について、実習を通して学ぶ。</li> <li>自分で処置できないけが（大きなけが）の対処方法について考える。</li> <li>これまでの学習を振り返り、自分の生活に生かすことを話し合う。</li> </ul>

エ 研究主題に迫る指導の手だて

(ア) 主体的な学びの工夫

- 課題を身近に感じさせるため、本校のけがの発生状況（けがが起こる場所や原因、その場面の写真）や保健委員会が作成している校内けがマップを活用する。
- 習得した知識を活用してけがを減らす対策を考える活動を取り入れるとともに、学習の振り返りで、自分の考えや思いをまとめる。


(イ) 対話的な学びの工夫

- 危険な場面の写真を毎時間提示し、その写真から児童が気付いたことを発表し全体で共有する。
- グループの話合い活動では、個人の意見を書いた付箋を用いて、自分や相手の考えを共有したり分類したりする。
- テーマに沿った思考の流れを可視化できるよう、ワークシートを工夫する。

オ 本時の目標

学校生活のけがを防ぐために、話し合ったり発表したりすることを通して、危険の予測や回避の方法を考えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

カ 本時の展開 (3/4)

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、 本時のねらいを把握する。	○ 安全な生活を送るために大切なことを 再度確認する。(危険に早く気付く・き まりを守る・安全な行動をとる・環境を 整える)	
<b>校内のけがを減らす対策を考えよう</b>			
展開 30分	2 学校生活でけがが起こり やすい場面について事例を 基に考える。 	○ 本校でけがが起こりやすい場面の写真 を取り上げ、どんな危険が隠れている か、また危険を防ぐためにはどうしたら よいか発問する。  <b>【主体的な学びの工夫】</b> 校内の事例を提示し、課題を身近に感 じさせることで、学習意欲を高める。	  <b>【思考力、判断 力、表現力等】</b> ○ 校内でけが を防ぐための 対策について 学校の実態や 自分の生活経 験、地域の取 組等と関連付 けて考え、そ れらを説明し ている。 (観察・ワーク シート)
	3 校内のけがを防ぐための 対策をグループで考える。  <b>①</b> 個人で付箋にアイデアを書 き、カード枠内の下段【校内の けがを減らす対策】に貼って いく。 <b>②</b> けがを減らす対策を、どの 学年を対象として考えていく か決める。 <b>③</b> 出たアイデアから、対象と する学年に合っている対策を 中段【ターゲットに合った対 策】に移動する。 <b>④</b> さらに、自分たちができそ うな対策を上段【自分たちが できること】に移動する。 <b>⑤</b> 最終的にグループで実際 に行う対策を短冊に1つ書いて 黒板に貼る。 <b>⑥</b> 具体的な対策内容を考え、 ワークシートに書く。	○ 班に1枚カードを配付し、ワークシート を基に話し合う流れを確認する。  <b>【対話的な学びの工夫】</b> 付箋を用いて、自分の考えを互いに伝え 合い、協働的に課題解決を図る。  ○ 留意事項を説明する。 ○ 前時までの学習で使用してきた校内けが マップやけがの実態データ、写真、交通 事故を防ぐための工夫や努力等の資料を 参考にしながら考える。 ○ 実際に学校や地域で安全のために行っ ている工夫や努力についても説明しなが ら話し合いを進める。	
まとめ 10分	4 グループの意見を全体で 共有する。  5 本時の学習内容について 振り返る。  6 次時の学習についての見 通しをもつ。	○ 全体で共通理解を図る。  ○ ワークシートに、自分の考えや思いを まとめ、次時の学習につなげる。  ○ 学校のけがを減らす対策を考え実行す る準備をしていくことを伝える。	

キ 板書例

<b>校内のけがを減らす対策を考えよう</b>		
けが・事故を防ぐため に大切なこと <b>人の行動</b> 危険に早く気付く 安全な行動 きまりを守る <b>周りの環境</b> 安全に整える	<b>各部隊の対策</b> 1班2班 3班4班 5班6班 7班	電子黒板 校内でけがが多 い箇所での危険 な場面(写真)

<b>校内けがマップ</b>			
校内で多い けがの場所 (グラフ)	学年別保健室 来室者数 (グラフ)	学年別 危険な場所	
交通事故を 防ぐための 取組写真①	交通事故を 防ぐための 取組写真②		

(2) 検証授業②【中学校】

ア 単元名 傷害の防止 第2学年(3) 傷害の防止

イ 単元の目標

知識及び技能	交通事故や自然災害などによる傷害の防止、応急手当の意義と実際について理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	傷害の防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的根拠に基づいて考え、判断し、それらを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	傷害の防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。

ウ 単元計画

	ねらい	主な学習活動
第1時	交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因によって発生することについて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を基に、傷害が起こる要因について整理する。</li> <li>学習したことを活用し、事故や傷害が起きた人的要因と環境要因を考え、発表する。</li> </ul>
第2時	交通事故などによる傷害を防止するためには、安全に行動すること、環境を整備、改善をすることがあることについて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故による傷害を防ぐためには、危険を予測し回避する必要があることを整理する。</li> <li>学習したことを活用し、予測できる危険と回避の方法を考え、発表し合う。</li> </ul>
第3時	犯罪被害による傷害について、情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>犯罪を防ぐための三要素、犯罪被害の人的要因とその対策、地域の安全について整理する。</li> <li>学習したことを活用し、犯罪被害を予測し、回避する方法を考え、話し合う。</li> </ul>
第4時	自然災害などによる傷害の防止について、様々な危険を予測し、回避する方法を選択するとともに、二次災害によっても傷害が生じることについて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の家庭や学校、地域では地震などの自然災害に対して、どのような備えをしているか、発表し合う。</li> <li>事例を活用し、災害時の情報の種類や、情報活用の必要性について調べ、整理する。</li> </ul>
第5時	自然災害による傷害について、話し合ったり発表したりすることを通して、危険の予測や回避の方法を考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を基に、防災に関する取組を調べ、整理する。</li> <li>学習したことを活用し、予測できる危険と回避の方法を考え、発表し合う。</li> </ul>
第6・7時	応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることについて理解することができるようにするとともに、人工呼吸、胸骨圧迫などの心肺蘇生法、直接圧迫止血法ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>応急手当の意義についてまとめ、心肺蘇生法の手順や胸骨圧迫のポイントを整理する。</li> <li>場面を設定し、心肺蘇生法の実習を行う。他のグループとの話し合い、伝え合いを通して応急手当について発表し合う。</li> </ul>
第8時	傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法について、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートに記述したりして、筋道を立てて伝え合うことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷害の場面カードを基に、けがの状況に適した応急手当の手順や、危険を予測し回避する方法を考える。</li> <li>単元を通して学んだことをこれからの生活どのように生かしていくのかをワークシートに記入し、発表する。</li> </ul>

エ 研究主題に迫る指導の手だて

(ア) 主体的な学びの工夫

- 授業の導入で前時を振り返り、課題に見通しをもたせるとともに、実際の人間の胸骨圧迫に強度が近いペットボトルを用いて心肺蘇生法の実習を行うことで、実感を伴った理解に導く。また、習得した知識・技能の定着を図る。

(イ) 対話的な学びの工夫

- グループで実習を行い、その後、新たなグループを作り、学びを他者と共有する。(①) また、そこで学んだことを元のグループに持ち帰り、聞いてきたことを伝え合う活動を通して、多様な解決方法を考えたり思考を深めたりする。(②)



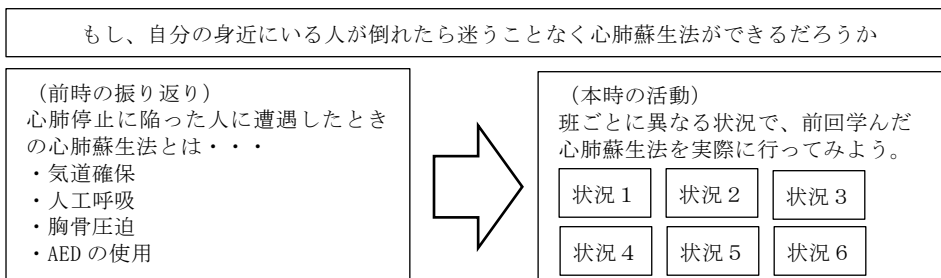
オ 本時の目標

傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、予測しながら危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を見だし、それらを選択した理由などを他者と話し合い、筋道立てて伝え合うことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

カ 本時の展開 (7/8)

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、本時のねらいを把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストカードを使用し、前時の学んだ内容の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>応急手当の意義</li> <li>AED使用法を含む心肺蘇生法</li> </ul> </li> <li>傷病者に遭遇した場合、躊躇せず迅速に行動するには、科学的な理解と実習等による体験が大切であることを押さえる。</li> </ul>	
もし、自分の身近にいる人が倒れたら迷うことなく応急手当ができるだろうか			
展開 35分	2 課題に対し、心肺蘇生法の実習に取り組む。  3 班ごとに振り返る。 4 他の班と振り返りを共有する。 5 元の班に戻り、聞いた内容を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとに状況が異なる六つの課題を提示する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>夕食時に家庭で家族が倒れた。</li> <li>休み時間に学校で友人が倒れた。</li> <li>下校時に道路で友達が倒れた。</li> <li>休日に公園で友達が倒れた。</li> <li>休日に駅で家族が倒れた。</li> <li>部活動の最中に体育館で部員が倒れた。</li> </ol> </li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【主体的な学びの工夫】</b>            場面を想定した心肺蘇生法の実習を通して、学びを実感させる。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>傷病者発見後、すぐに胸骨圧迫をすることができたか、AEDを持ってこよう指示ができたか、救急車を要請することができたかを班ごとに確認させる。その際、必ずできなかった(足りなかった)ことも挙げるように促す。</li> <li>班内で番号を決め、番号ごとに新たなグループを作り、他の班の学びを共有する。</li> <li>元の班に戻り、自分達とは異なった状況に置かれた際の心肺蘇生の方法を知り、他者に伝え合う活動を通して学びを深めるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>【対話的な学びの工夫】</b>            多様なグループ活動を取り入れ、生徒が協働的に課題解決を図る。         </div>	<b>【思考力、判断力、表現力等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、予測しながら危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を見いだし、それらを選択した理由などを他者と話し合い、筋道立てて伝える。(観察、ワークシート)</li> </ul>
まとめ 10分	6 本時の学習内容について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに、自分の意見をまとめるようにする。</li> <li>本時で考えた意見を基に、いざというときに身近な人を助けることが自分たちにもできることを伝える。</li> </ul>	

キ 板書例



(2) 検証授業③【高等学校】

ア 単元名 生涯を通じる健康 第2学年(3)生涯の各段階における健康

イ 単元の目標

知識	生涯にわたって健康を保持増進するためには、自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解することができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、筋道を立てて説明することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	生涯を通じる健康に関する資料を探したり、読んだり、課題の解決に向けて話し合いや意見交換をしたりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。

ウ 単元計画

	ねらい	主な学習活動
第1時	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期の心身の発達と変化と健康課題(問題行動・妊娠中絶・性感染症等)について、身体・心・行動の三つの側面から考える。</li> </ul>
第2・3時	変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解するとともに、性に関する自分の行動について考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>性に関する正しい情報を選択し、適切に行動する必要性を考える。</li> <li>「もし、自分が性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？」の問題について、事前事後で自分の立場を決め、性に関する行動を考える。</li> </ul>
第4時	受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解するとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>受精、妊娠、出産の過程と母子の健康課題について、図や表、アンケート結果などから考える。</li> <li>資料を基に、相手を思いやる行動や自分が取るべき行動について考える。</li> </ul>
第5時	家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて理解するとともに、様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工妊娠中絶が女性の心身に与える影響を理解し、それを避けるための判断や行動を考える。</li> <li>望まない妊娠をしないための正しい避妊法を知り、自分なりの考えをまとめる。</li> </ul>
第6・7時	中高年期や、高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解するとともに、生活習慣や自己管理について、自分の考えをまとめることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>加齢に伴う心身の変化について話し合い、中高年を健やかに過ごすための工夫を考える。</li> <li>様々な健康課題を理解するとともに、若い頃からの生活習慣や自己管理について、自分なりの考えをまとめる。</li> </ul>
第8時	高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解するとともに、暮らしやすい社会づくりについて考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための取組を考える。</li> <li>保健、医療、福祉の連携や総合的な対策について話し合い、暮らしやすい社会づくりについて考える。</li> </ul>

エ 研究主題に迫る指導の手だて

(7) 主体的な学びの工夫

重曹が入ったコップの水を半分ずつ分け合う(交換する)活動を通して、感染源と直接水を交換していない生徒も間接的に感染することを体験させ、性感染症の広がりを実感させる。体験活動を通して、自分のこととして捉えられるようにする。

(4) 対話的な学びの工夫

性感染症に関するデータを基に、生徒が課題意識をもって、学習前後の自分の立場について記名したマグネットをホワイトボードに貼り付けて示すことで、思考過程を可視化する。

オ 本時の目標

性に関する適切な対処について、知識を基に、自分の行動について考えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】

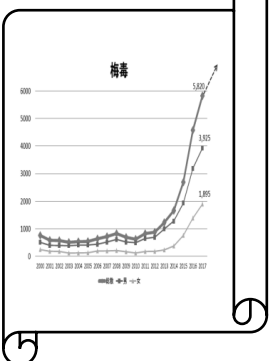
カ 本時の展開 (3/8)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の振り返りをする。</li> <li>○ 問題に対する自分の立場を確認する。(学習前)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題に対して、既習の知識から自分の立場やそれを選択した理由を考えるようにする。</li> </ul>	
もし、自分が性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？			
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性感染症の報告数の特徴をグラフから読み取る。</li> <li>○ 性感染症の広がりを体験する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性感染症についてグループ活動を行い、知識を活用して、性に関する課題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性感染症が若年層で増加していることに着目させ、当事者意識をもてるようにする。</li> <li>○ 水の交換を性的接触になぞらえ、一度でも性的接触があると、性感染症になる可能性があることに着目できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【主体的な学びの工夫】</b> 水を半分ずつ分け合う活動を通して、性感染症がどのように広がるかを体験させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 症状が出ないものがあることが、感染を広げる要因になることを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【対話的な学びの工夫】</b> 個々の知識をグループ内で持ち寄り、性情報や情報源について話し合わせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性知識、性情報の入手方法について触れ、適切な情報選択について確認する。</li> </ul>	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の振り返りをする。</li> <li>○ 問題に対する自分の立場を決める。(学習後)</li> </ul> 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【対話的な学びの工夫】</b> 問題に対して、本時の学習を振り返りながら、自分の立場や、それを選択した理由を考えさせる。(ホワイトボードの活用)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ もし、自分が逆の立場だとしたら、パートナーに打ち明けてほしいかを問い、問題を多面的に捉えられるようにする。</li> <li>○ 本時の学習を振り返り、生徒の学びや変容を捉えられるようにする。</li> </ul>	<p>【思考力、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性に関する適切な対処について、知識を基に自分の行動について考えている。(ワークシート)</li> </ul>

キ 板書例

自分が性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？

A	B	C	D
○	×	○	×
(ネット)	(友達)	(学校)	(ネット)
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・



自分か性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？

← 打ち明ける                      打ち明けない →

打ち明ける

■

■

■

■

□

□

□

□

打ち明けない

□

□

□

□

■

■

■

■

(4) 検証授業④【特別支援学校】

ア 題材名 歯磨き指導 知的障害教育部門 小学部第1学年 生活単元学習

イ 研究主題に迫る指導の手だて

(ア) 主体的な学びの工夫

- ・ 歯磨きに関する知識を習得し、人工歯垢と顎モデルを用いた体験活動を通して実践できるようにする。体験で得た知識と技能を活用して歯垢の染め出しを行うことで、自分の口の中に汚れがあることに気付かせ、主体的に取り組めるようにする。

(イ) 対話的な学びの工夫

- ・ クラス単位の小集団で歯科衛生士、養護教諭と担任が TT 形式で授業を行うことで、児童の実態に応じた発問を増やしたり、反応にすぐに答えたりするなどグループ編成の工夫を行う。
- ・ 人工歯垢と顎モデルを使用した体験を一人ずつ行う際に、児童が他の児童の学ぶ姿を見て、自分ならどうするかを考えたり、表現したりすることで自分のこととして捉えられるようにする。

(5) 検証授業で活用したワークシート【参考資料】

部队的取組 ～君に決めた！～

自分たちができること

↑

ターゲットにあった対策

↑

校内のけがを減らす対策

けが対策！！

ターゲット：1 2 3 4 5 年（複数でも可）

誰か理由

↓

どんな方法で予防しますか

校内のけがを減らす対策を考えよう

1 けがを減らすための対策を考え、らせんに書きましょう。（後でここは必ず）

2 今日の学習の振り返りをしましょう。  
（自分のグループでの話し合いや他のグループの意見を聞いて、思ったことや感じたこと、このようにしたい理由など）

検証授業①【小学校 けがの防止 第5学年】

保健体育ワークシート 心肺蘇生法

1 指ごに行う心肺蘇生法について

自分は 指で、心肺蘇生をする状況は 指でです。

○できたことをチェックしてみよう！

チェック項目	
① 指で、呼吸の確認ができたか	
② AED をもってくるように呼びかけたか	
AED のからめ方は？	
③ 救命ボタンが押されたか	
④ すぐに搬送しなされたか	

○できなかったこと、遅かったこと、自慢のなかったこと

2 1で学んだことを他の指と共有してみよう！

他の指で学んだことをメモしてみよう！

3 本時の振り返り

今日の授業の感想を書きましょう。

2年次 保健

思春期と健康③～性感染症～

もし、自分が性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？

(学習前) ※2つの視点から考えよう

打ち明ける or 打ち明けない

私の選択は、

もし、自分が性感染症だと分かったら、パートナーに打ち明ける？

(学習後) ※2つの視点から考えよう。

打ち明ける or 打ち明けない

私の選択は、

検証授業②【中学校】  
【傷害の防止 第2学年】

検証授業③【高等学校 生涯を通じる健康 第2学年】



## VII 研究のまとめ

### 1 効果検証

検証授業実施前を事前、実施後を事後とし、保健教育の効果検証を行った。事前と比較すると、「③保健の学習を通して、自分の生活をより良くするための方法を考えている。」は201人から247人に、「④保健の学習で、自分の意見を発表したり、ワークシートに書いたりしている。」は206人から239人に、「⑤保健の学習で、話し合い活動や伝え合い活動に積極的に参加している。」は188人から235人に肯定的に回答した児童・生徒が増加した（図3）。

また、事前アンケート結果で、検証授業前に否定的（あまりそう思わない、そう思わない）に回答した児童・生徒の変容を分析した結果、「③保健の学習を通して、自分の生活をより良くするための方法を考えている。」は61%、「④保健の学習で、自分の意見を発表したり、ワークシートに書いたりしている。」は53%、「⑥保健の学習で学んだことや友達の見解を、自分の生活に生かそうとさらに考えを深めている。」は63%、「⑦保健の学習で学んだことを自分の生活に生かしている。」は59%の児童・生徒が肯定的な回答に転じた（図4）。

児童・生徒の思考力、判断力、表現力等の高まりについては、授業中の発言やワークシートの記述から分析した。授業中の発言や教師による観察では、話し合いや伝え合い活動を通して、児童・生徒の関わり合いが増加した。健康課題に対して協働的に課題解決を図りながら、自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。また、ワークシートの記述内容（表6）では、自分の考えを生活に結び付けたり、科学的根拠に基づいて判断したりするなど、検証授業前より具体的に記述できる児童・生徒が増加した。

表6 思考力、判断力、表現力等に関する児童・生徒の具体的な記述（ワークシートから抜粋）

小学校 第5学年 けがの防止	○ 危険な場面のランキングを見ると、3年生が廊下を走っていて危ないと思った。だから3年生の教室の近くで「廊下は走らない」などのポスターや看板などを作って、少しでも多くけがを減らしたいと思う。また、周りの環境でフックから荷物が落ちていたり、廊下が濡れていたりするとけがの原因になるので、落ちている荷物はフックにかけ、濡れている所は拭くようにしていきたい。
中学校 第2学年 傷害の防止	○ 実際に心臓マッサージする場合、怖くてできないと思った。自分が心臓マッサージをするということは、その人の命を握っていることだと思う。AEDの場所はあまり知らないけど、今日の授業の場合のように学校の近くだったら、知っておいた方が絶対早く準備できると思うので、把握しておこうと思う。今日学んだことをきちんと覚えておきたい。
高等学校 第2学年 生涯を通じた健康	○ 感染を打ち明けることで、お互いのためにもなるし、今の生活の改善策や性生活について話し合うきっかけにもなると思う。知識があれば、怖く思う感染症も避けられる可能性が上がるので、正しい知識を身に付けることが大切だと強く思った。

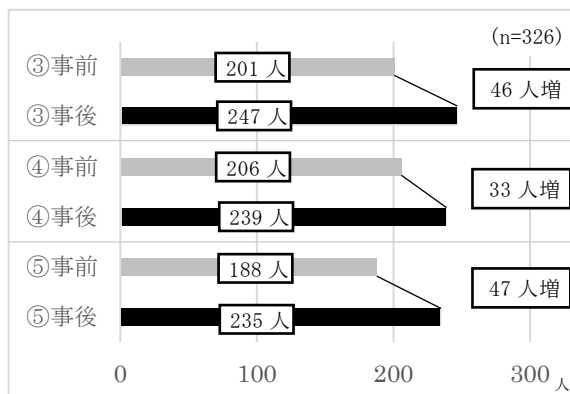


図3 児童・生徒の思考・表現・意欲の変容

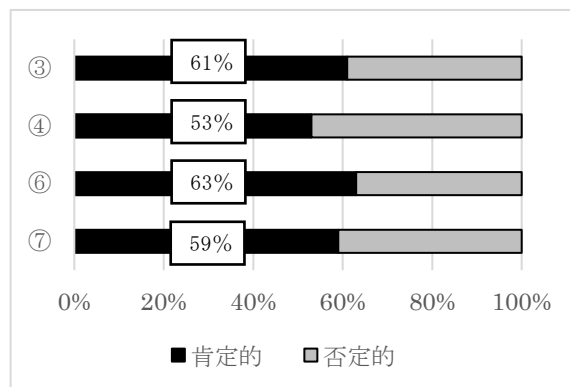


図4 否定的から肯定的に変容した児童・生徒の割合

③保健の学習を通して、自分の生活をより良くするための方法を考えている。  
 ④保健の学習で、自分の意見を発表したり、ワークシートに書いたりしている。  
 ⑥保健の学習で、話し合い活動や伝え合い活動に積極的に参加している。  
 ⑦保健の学習で学んだことや友達の見解を、自分の生活に生かそうとさらに考えを深めている。  
 ⑦保健の学習で学んだことを自分の生活に生かしている。

## 2 研究の成果

### (1) 主体的・対話的な学びの工夫

保健教育の中で、身近な事例や体験的な活動を取り入れたり、導入・終末を工夫したりすることで、児童・生徒が健康課題を自分のこととして考える姿が見られ、主体的な学びにつながった。また、対話的な活動では、ワークシートを活用し、個人で考える場面や、グループでの活動を意図的に設定することで、話し合いや伝え合う活動を活発にさせることができた。事前調査で否定的に回答した児童・生徒の約半数が事後に肯定的に変化したことは、一人一人が自分の意見をもって授業に参加することにつながり、主体的・対話的な学びの工夫が効果的であったと考える。

### (2) 発達段階に応じた保健教育の実施

保健教育は小学校から高等学校まで継続的に行われる学習である。それぞれの校種で、学習に主体的に取り組む姿や学び合いの様子、健康課題を解決するワークシートの記述から、児童・生徒の思考力、判断力、表現力等が育まれたことを見取ることができた。事後調査からも、保健の学習で学んだことを自分の生活に生かしていると回答した児童・生徒の割合が80%を超えた結果からも、健康に関する適切な意思決定や行動選択ができる力を高めることができたと考える。

## 3 今後の課題

### (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業マネジメント

児童・生徒の思考力、判断力、表現力等を育むために、主体的な学びや対話的な学びは効果的であったが、単元計画や指導と評価の計画を作成する際、一単位時間の授業マネジメントを工夫するとともに、児童・生徒にどのような力を身に付けさせるのかを明確にし、三つの資質・能力をバランスよく育てていく必要がある。

### (2) 変容が見られなかった児童・生徒への手だて

事前調査で否定的に回答した児童・生徒の約半数が、検証授業後に肯定的に変化した。一方で、否定的なまま変容が見られない児童・生徒もいた。授業観察やワークシートの記述から原因について分析するとともに、主体的・対話的な学びの工夫について、さらに改善していく必要がある。

### (3) 個別指導との関連

各校種で養護教諭を中心とした保健教育を実施した。養護教諭が保健教育を行うに当たり、担任や教科指導と連携するだけでなく、カリキュラム・マネジメントの視点で考え、個々の児童・生徒の課題を把握しながら、個別の言葉掛けや面談等を通して、指導や援助を行っていく必要がある。

### 【参考文献】

- 「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（文部科学省 平成29年3月）
- 「小学校学習指導要領解説 総則編、体育編」（文部科学省 平成29年7月）
- 「中学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編」（文部科学省 平成29年7月）
- 「高等学校学習指導要領」（文部科学省 平成30年3月）
- 「高等学校学習指導要領解説 総則編、保健体育編 体育編」（文部科学省 平成30年7月）
- 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（文部科学省 平成30年3月）
- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成28年12月21日）
- 「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き 改定版」（文部科学省 平成31年3月）
- 「平成28年度保健学習推進委員会報告書」（公益社団法人日本学校保健会 平成29年2月）

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

小・中・高・特 合同・学校保健

学校名	職名	氏名
町田市立つくし野小学校	養護教諭	土門真裕
小平市立小平第四小学校	主幹教諭	◎芝宮尚美
国分寺市立第五小学校	養護教諭	増淵優花
中野区立第四中学校	主任養護教諭	岩下奈々恵
練馬区立大泉西中学校	主任養護教諭	波多野仁美
足立区立伊興中学校	主任養護教諭	鳥居千恵
東京都立八王子拓真高等学校	養護教諭	出口明日美
東京都立あきる野学園	主任養護教諭	正木里佳

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 鞆 健治

平成 31 年度 (2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
小・中・高・特 合同・学校保健

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849